# 統一的な基準による財務書類

# 平成28年度決算分

# 南陽市財政課

- 1 統一的な基準による財務書類 (一般・全体・連結 財務書類三表)
- 2 統一的な基準による財務書類説明資料
- 3 南陽市の財務書類(分析編)

# 一般会計等貸借対照表

(平成29年 3月31日現在)

			(単位:円)
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	45,613,941,091		17 101 000 010
	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	固定負債	17,101,928,819
有形固定資産	44,232,690,129		14,788,094,819
事業用資産	25,423,342,079	長期未払金	0
土地	9,476,361,330		2,313,834,000
立木竹		損失補償等引当金	2,010,001,000
	0		0
建物	30,662,727,874		0
建物減価償却累計額	-14,872,497,281	流動負債	1,551,262,157
工作物	379,119,384	1年内償還予定地方債	1,251,859,821
工作物減価償却累計額	-222,369,228		1,201,000,021
			0
船舶	0	未払費用	0
船舶減価償却累計額	0	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	272,375,307
	=		
航空機	0	預り金	27,027,029
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	0	負債合計	18,653,190,976
その他減価償却累計額	n	【純資産の部】	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
		固定資産等形成分	47 042 050 200
建設仮勘定	0		47,243,850,389
インフラ資産	18,614,444,994	余剰分(不足分)	-17,890,362,202
土地	3,546,844,625		
建物	65,520,000		
建物減価償却累計額	-27,118,348		
工作物	28,799,927,745		
工作物減価償却累計額	-13,770,729,028		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	Ŏ		
	1 000 055 050		
物品	1,088,255,959		
物品減価償却累計額	-893,352,903		
無形固定資産	0		
ソフトウェア	O		
その他	Ĭ		
	1 004 050 000		
投資その他の資産	1,381,250,962		
投資及び出資金	395,491,191		
有価証券	28,803,091		
出資金	366,688,100		
	300,000,100		
その他			
投資損失引当金	-149,999,999		
長期延滞債権	108,368,359		
長期貸付金	28,571,200		
基金	1,013,220,417		
減債基金	9,297,000		
その他	1,003,923,417		
その他	0		
徴収不能引当金	-14,400,206		
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
流動資産	2,392,738,072		
現金預金	797,618,205		
未収金	21,534,194		
短期貸付金	0		
基金	1,573,877,452		
財政調整基金	1,472,899,592		
減債基金	100,977,860		
棚卸資産	0		
その他	n		
	001 770	—————————————————————————————————————	20 252 400 107
徴収不能引当金	-291,779		29,353,488,187
資産合計	48,006,679,163	負債及び純資産合計	48,006,679,163

## 【様式第2号及び第3号(結合)】

# 一般会計等行政コスト及び純資産変動計算書

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

		•	(単位:円)
科目	金額		
経常費用	12,823,674,936		
業務費用	6,856,781,876		
人件費	2,292,998,120		
職員給与費	1,594,301,979		
賞与等引当金繰入額	272,375,307		
退職手当引当金繰入額	259,390,987		
その他	166,929,847		
物件費等	4,340,598,172		
物件費	2,585,202,471		
維持補修費	187,014,012		
減価償却費	1,567,184,709		
その他	1,196,980		
その他の業務費用	223,185,584		
支払利息	153,899,404		
型	10,720,835		
	58,565,345		
その他			
移転費用	5,966,893,060		
補助金等	2,381,930,352		
社会保障給付	1,979,319,618		
他会計への繰出金	1,602,317,236		
その他	3,325,854		
経常収益	332,288,386		
使用料及び手数料	153,243,940		
その他	179,044,446		
純経常行政コスト	12,491,386,550		
臨時損失	67,033,773		
災害復旧事業費	65,710,853		
資産除売却損	1,322,920		
投資損失引当金繰入額	0		
損失補償等引当金繰入額	0		
その他	0		
臨時利益	299,527,673		
資産売却益	24,554,673	金	額
その他	274,973,000	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
純行政コスト	12,258,892,650		12,258,892,650
財源	12,397,742,684		12,397,742,684
税収等	9,404,432,708		9,404,432,708
国県等補助金	2,993,309,976		2,993,309,976
本年度差額	138,850,034		138,850,034
固定資産等の変動(内部変動)		-207,747,136	207,747,136
有形固定資産等の増加		378,718,063	
有形固定資産等の減少		-1,568,507,629	1,568,507,629
貸付金・基金等の増加		1,254,606,596	
貸付金・基金等の減少		-272,564,166	272,564,166
資産評価差額	1,310,497	1,310,497	=: 2,000.,100
無償所管換等	11,902,803	11,902,803	
その他	-998,997	-998,997	0
本年度純資産変動額	151,064,337	-195,532,833	346,597,170
前年度末純資産残高	29,202,423,850	47,439,383,222	-18,236,959,372
本年度末純資産残高	29,353,488,187	47,243,850,389	
个十尺个代具压况同	20,000, <del>4</del> 00,107	+1, <b>∠</b> +3,030,309	17,000,002,202

### 【様式第4号】

# 一般会計等資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

	(単 <b>位</b> :円 <i>)</i>
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	11,212,597,533
業務費用支出	5,245,704,473
人件費支出	2,259,826,261
物件費等支出	
	2,773,413,463
支払利息支出	153,899,404
その他の支出	58,565,345
移転費用支出	5,966,893,060
補助金等支出	2,381,930,352
社会保障給付支出	1,979,319,618
他会計への繰出支出	1,602,317,236
その他の支出	3,325,854
業務収入	12,661,506,322
税収等収入	9,409,398,500
国県等補助金収入	2,920,141,976
使用料及び手数料収入	153,111,295
その他の収入	178,854,551
臨時支出	65,710,853
災害復旧事業費支出	65,710,853
その他の支出	05,710,855
	0
臨時収入	1 000 107 000
業務活動収支	1,383,197,936
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,633,324,659
公共施設等整備費支出	378,718,063
基金積立金支出	1,155,386,596
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	99,220,000
その他の支出	0
投資活動収入	370,286,839
国県等補助金収入	73,168,000
基金取崩収入	170,407,666
貸付金元金回収収入	102,156,500
資産売却収入	24,554,673
その他の収入	0
投資活動収支	-1,263,037,820
【財務活動収支】	.,200,007,020
財務活動支出	1,261,618,458
地方債償還支出	1,261,618,458
その他の支出	l ' ' ' _
財務活動収入	799 700 000
	788,700,000
地方債発行収入	788,700,000
その他の収入	0
財務活動収支	-472,918,458
本年度資金収支額	-352,758,342
前年度末資金残高	1,123,349,518
本年度末資金残高	770,591,176
	1
前年度末歳計外現金残高	23,896,901
本年度歳計外現金増減額	3,130,128
本年度末歳計外現金残高	27,027,029
本年度末現金預金残高	797,618,205

# 全体貸借対照表 (平成29年 3月31日現在)

利量	<b>△</b>	利中	(単位:円 <u>)</u>
科目	金額	科目	金額
【資産の部】	00 400 000 007	【負債の部】 田中色 <i>佳</i>	04.075.000.004
固定資産	68,469,898,267	固定負債	34,375,069,291
有形固定資産	65,371,364,642	地方債	24,812,283,035
事業用資産	25,423,342,080		0
土地	9,476,361,330	退職手当引当金	2,486,651,477
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	30,663,998,024	その他	7,076,134,779
建物減価償却累計額	-14,873,767,430		2,505,312,276
工作物	379,119,384	1年内償還予定地方債	2,102,016,031
工作物減価償却累計額	-222,369,228	未払金	68,549,256
船舶	0	未払費用	0
船舶減価償却累計額	0	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	300,625,065
航空機	0	預り金	34,121,924
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	0	負債合計	36,880,381,567
その他減価償却累計額	0	【純資産の部】	
建設仮勘定	0	固定資産等形成分	69,941,430,750
インフラ資産	39,571,101,422	余剰分(不足分)	-34,458,463,660
土地	3,795,215,755		
	623,380,588		
建物減価償却累計額	-275,868,187		
工作物	57,244,113,856		
工作物減価償却累計額	-21,907,443,484		
エロ	21,007,440,404		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	91,702,894		
物品	1,735,932,465		
物品減価償却累計額	-1,359,011,325		
初	1,097,754,352		
無が固定員度 ソフトウェア	1,097,794,392		
	· ·		
その他	1,097,754,352		
投資その他の資産	2,000,779,273		
投資及び出資金	398,830,191		
有価証券	28,803,091		
出資金	370,027,100		
その他	0		
投資損失引当金	-149,999,999		
長期延滞債権	257,587,445		
長期貸付金	28,571,200		
基金	1,494,378,125		
減債基金	9,297,000		
その他	1,485,081,125		
その他	72,620		
徴収不能引当金	-28,660,309		
流動資産	3,893,450,390		
現金預金	2,065,434,319		
未収金	175,281,709		
短期貸付金	0		
基金	1,573,877,452		
財政調整基金	1,472,899,592		
減債基金	100,977,860		
棚卸資産	10,094,935		
その他	81,965,000		
徴収不能引当金	-13,203,025	純資産合計	35,482,967,090
資産合計	72,363,348,657	負債及び純資産合計	72,363,348,657
	, , ,		, , ,,

#### 【様式第2号及び第3号(結合)】

# 全体行政コスト及び純資産変動計算書

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

科目	金額		
経常費用	20,314,855,682	i	
業務費用	8,691,068,773		
人件費	2,554,882,856		
職員給与費	1,791,353,743		
賞与等引当金繰入額	300,625,065		
退職手当引当金繰入額	290,049,098		
その他	172,854,950		
物件費等	5,647,401,786		
物件費	3,125,298,370		
維持補修費	219,389,200		
減価償却費	2,301,432,417		
その他	1,281,799		
その他の業務費用	488,784,131		
支払利息	364,729,948		
徵収不能引当金繰入額	32,273,319		
その他	91,780,864		
移転費用	11,623,786,909		
補助金等	2,548,908,763		
社会保障給付	9,071,547,292		
他会計への繰出金	9,071,047,292		
その他	3,330,854		
経常収益	1,471,353,683		
使用料及び手数料	1,263,533,197		
その他	207,820,486		
純経常行政コスト	18,843,501,999		
臨時損失	75,335,499		
	65,710,853		
₩	7,090,593		
■	7,090,593		
投資很大引 当 並 株 八	0		
損大補債等が日本株八般 その他	2,534,053		
臨時利益 ※ 充志 切 并	299,527,673		カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ
資産売却益	24,554,673		<sub>領</sub> 余剰分(不足分)
その他   純行政コスト	274,973,000 18,619,309,825	固定資産等形成分	
財源			18,619,309,825 19,234,519,361
	19,234,519,361		, , ,
税収等 国県等補助金	13,864,752,780		13,864,752,780
本年度差額	5,369,766,581		5,369,766,581
	615,209,536	E1E 000 000	615,209,536
固定資産等の変動(内部変動)		-515,880,822 050,017,970	515,880,822
有形固定資産等の増加		950,017,870 -2,428,870,740	-950,017,870
有形固定資産等の減少			2,428,870,740
貸付金・基金等の増加		1,308,153,214	-1,308,153,214
貸付金・基金等の減少	1 010 407	-345,181,166 1 210 407	345,181,166
資産評価差額	1,310,497	1,310,497	
無償所管換等	121,009,107	121,009,107	10 507 5 47
その他	18,538,550	-998,997	19,537,547
本年度純資産変動額	756,067,690	-394,560,215	1,150,627,905
前年度末純資産残高	34,726,899,400	70,335,990,965	-35,609,091,565
本年度末純資産残高	35,482,967,090	69,941,430,750	-34,458,463,660

## 【様式第4号】

# 全体資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

(単位·円)

	(単位:円)
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	18,049,054,517
業務費用支出	6,425,267,608
人件費支出	2,505,429,295
物件費等支出	3,463,499,431
支払利息支出	364,729,948
その他の支出	91,608,934
移転費用支出	11,623,786,909
神助金等支出	
	2,548,908,763
社会保障給付支出	9,071,547,292
他会計への繰出支出	0 000 054
その他の支出	3,330,854
業務収入	20,486,599,380
税収等収入	13,896,671,932
国県等補助金収入	5,126,372,578
使用料及び手数料収入	1,255,924,279
その他の収入	207,630,591
臨時支出	68,244,906
災害復旧事業費支出	65,710,853
その他の支出	2,534,053
臨時収入	0
業務活動収支	2,369,299,957
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,123,462,454
公共施設等整備費支出	815,309,240
基金積立金支出	1,208,933,214
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	99,220,000
その他の支出	0
投資活動収入	569,460,238
国県等補助金収入	199,724,399
基金取崩収入	243,024,666
貸付金元金回収収入	102,156,500
資産売却収入	24,554,673
その他の収入	0
投資活動収支	-1,554,002,216
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,116,941,209
地方債償還支出	2,116,941,209
その他の支出	0
財務活動収入	1,118,900,000
地方債発行収入	1,118,900,000
その他の収入	0
財務活動収支	-998,041,209
本年度資金収支額	-182,743,468
前年度末資金残高	2,221,150,758
本年度末資金残高	2,038,407,290
前年度末歳計外現金残高	23,896,901

前年度末歳計外現金残高	23,896,901
本年度歳計外現金増減額	3,130,128
本年度末歳計外現金残高	27,027,029
本年度末現金預金残高	2,065,434,319

# 連結貸借対照表 (平成29年 3月31日現在)

(単位·円)

			(単位:円)
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	71,248,387,154	固定負債	36,424,845,470
有形固定資産	67,810,646,908	地方債等	26,399,819,226
事業用資産	27,437,307,514		137,100
土地	9,836,353,245		2,884,166,113
立木竹	0,000,000,240	は、 損失補償等引当金	2,004,100,110
	_		7,140,723,031
建物	33,353,184,073		
建物減価償却累計額	-16,218,287,391		3,151,515,590
工作物	690,121,245	1年内償還予定地方債等	2,648,948,381
工作物減価償却累計額	-416,128,471	未払金	113,073,817
船舶	0	未払費用	11,976,321
船舶減価償却累計額	0	前受金	2,316,002
			2,010,002
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	339,481,433
航空機	0	預り金	34,344,318
航空機減価償却累計額	0	その他	1,375,318
その他	0	負債合計	39,576,361,059
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	00,070,001,000
			70.004.005.750
建設仮勘定	192,064,813		73,094,635,756
インフラ資産	39,579,369,534		-36,976,559,377
土地	3,795,215,755	他団体出資等分	0
建物	623,380,588		
建物減価償却累計額	-275,868,187		
工作物	57,253,331,792		
工作物減価償却累計額	-21,913,868,385		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	97,177,971		
物品	4,434,637,212		
物品減価償却累計額	-3,640,667,353		
無形固定資産	1,102,091,557		
ソフトウェア	4,079,095		
その他	1,098,012,462		
投資その他の資産	2,335,648,689		
投資及び出資金	243,830,191		
有価証券	28,803,091		
出資金	215,027,100		
その他	0		
長期延滞債権	257,597,276		
長期貸付金	29,856,400		
基金	1,827,118,825		
減債基金	9,297,000		
その他	1,817,821,825		
その他	5,906,689		
徵収不能引当金	-28,660,692		
はなれたがヨュ 流動資産	4,446,050,286		
加斯貝性 現金預金	2,360,369,680		
未収金	283,880,520		
短期貸付金	0		
基金	1,573,877,452		
財政調整基金	1,472,899,592		
減債基金	100,977,860		
棚卸資産	163,303,418		
その他	81,985,000		
徴収不能引当金	-17,365,783	// 1 A F	
繰延資産	0	純資産合計	36,118,076,380
資産合計	75,694,437,439	負債及び純資産合計	75,694,437,439
	,, ,		

# 連結行政コスト及び純資産変動計算書 自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

科目	金額	1		(+12.11)
経常費用	21,563,305,355			
	10,523,149,658			
業務費用	3,348,847,219			
人件費				
職員給与費	2,476,492,765			
賞与等引当金繰入額	339,481,432			
退職手当引当金繰入額	297,700,516			
その他	235,172,505			
物件費等	6,649,004,953			
物件費	3,597,112,184			
維持補修費	278,080,949			
減価償却費	2,532,724,050			
その他	241,087,770			
その他の業務費用	525,297,486			
支払利息	381,030,451			
徴収不能引当金繰入額	32,346,369			
その他	111,920,666			
移転費用	11,040,155,697			
補助金等	1,961,609,304			
社会保障給付	9,072,171,725			
その他	6,374,668			
経常収益	2,479,268,752			
使用料及び手数料	1,907,975,774			
その他	571,292,978			
純経常行政コスト	19,084,036,603			
臨時損失	94,246,412			
災害復旧事業費	65,710,853			
資産除売却損	16,344,803			
損失補償等引当金繰入額	0			
その他	12,190,757			
臨時利益	26,232,007			
資産売却益	24,555,344		金額	
その他	1,676,664		余剰分(不足分)	他団体出資等分
純行政コスト	19,152,051,007	四尺只在寸形闪灯	19,152,051,007	принце
財源	19,484,651,085		19,484,651,085	
税収等	14,085,460,730		14,085,460,730	
国県等補助金	5,399,190,354		5,399,190,354	
本年度差額	332.600.077		332,600,077	0
固定資産等の変動(内部変動)	002,000,077	-334,351,245	334,351,245	<u>`</u>
有形固定資産等の増加		1,296,900,829	-1,296,900,829	
有形固定資産等の減少		-2,751,701,921	2,751,701,921	
貸付金・基金等の増加		1,328,251,182	-1,328,251,182	
貸付金・基金等の減少		-207,801,335	207,801,335	
資産評価差額	376,036,065	376,036,065	207,001,000	
具度計画左領 無償所管換等	121,009,107			
無頂所官揆寺 他団体出資等分の増加	121,009,107	121,009,107		0
他団体出資等分の減少				0
	243,550,177		1,602,390,543	
比例連結割合変更に伴う差額	243,550,177 547,783,068		-455.093.153	
その他	, ,	, , ,	, ,	^
本年度純資産変動額	1,620,978,495		1,814,248,712	0
前年度末純資産残高	34,497,097,885		-38,790,808,088	0
本年度末純資産残高	36,118,076,380	73,094,635,756	-36,976,559,377	0

## 【様式第4号】

# 連結資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

	<u>(単位:円)</u>
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	18,876,236,981
業務費用支出	7,836,081,283
人件費支出	3,322,359,474
物件費等支出	4,021,737,287
支払利息支出	381,104,182
その他の支出	110,880,340
移転費用支出	11,040,155,697
神助金等支出	1,961,609,304
社会保障給付支出	9,072,171,725
その他の支出	
	6,374,668
業務収入	21,714,818,703
税収等収入	14,117,260,464
国県等補助金収入	5,126,559,769
使用料及び手数料収	1,901,565,864
その他の収入	569,432,606
臨時支出	77,901,610
災害復旧事業費支出	65,710,853
その他の支出	12,190,757
臨時収入	1,001,325
業務活動収支	2,761,681,438
【投資活動収支】	0.400.440.045
投資活動支出	2,490,419,345
公共施設等整備費支	1,162,192,200
基金積立金支出	1,228,276,345
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	99,950,800
その他の支出	0
投資活動収入	602,883,379
国県等補助金収入	220,535,958
基金取崩収入	255,635,606
貸付金元金回収収入	102,156,500
資産売却収入	24,555,315
その他の収入	0
投資活動収支	-1,887,535,966
【財務活動収支】	0.040.040.0=0
財務活動支出	2,619,348,078
地方債等償還支出	2,617,681,888
その他の支出	1,666,190
財務活動収入	1,775,242,112
地方債等発行収入	1,775,242,112
その他の収入	0
財務活動収支	-844,105,966
本年度資金収支額	30,039,505
前年度末資金残高	2,302,624,716
比例連結割合変更に伴う差額	589,580
本年度末資金残高	2,333,253,802
前年度末歳計外現金残高	23,896,901

前年度末歳計外現金残高	23,896,901
本年度歳計外現金増減額	3,218,977
本年度末歳計外現金残高	27,115,878
本年度末現金預金残高	2,360,369,680

# 平成28年度

×

Ж

Ж

Ж

×

×

×

×

×

Ж

×

×

×

Ж

Ж

×

×

X

×

×

×

Ж

X

×

×

×

×

×

Ж

×

×

×

×

×

Ж

X

×

Ж

Ж

X

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

×

Ж

Ж

Ж

Ж

Ж

×

×

Ж

Ж

Ж

Ж

×

Ж

Ж

×

Ж

×

×

×

Ж

X

×

×

Ж

Ж

×

Ж

Ж

Ж

Ж

×

×

Ж

Ж

×

×

×

×

Ж

×

Ж

Ж

Ж

×

Ж

Ж

X

# 南陽市

# 統一的な基準による財務書類 説明資料

平成30年3月 落合公認会計士事務所

## 目 次

- Ⅰ 地方公会計制度について
- Ⅱ 平成28年度 南陽市財務書類の公表について
- Ⅲ 平成28年度 財務書類 (要約)
  - (1)貸借対照表[バランスシート]
  - (2)行政コスト計算書及び純資産変動計算書
  - (3)資金収支計算書
- Ⅳ 分析比率
- V 財務書類からわかること
  - (1)比較分析のための前提条件等
  - (2)基礎的財政収支の状況・・・資金収支計算書より
  - (3)地方債等と現金預金の状況
  - (4)地方債等と現金預金の経年推移
  - (5)純資産変動計算書の「本年度差額」の状況
  - (6)純資産変動計算書の「固定資産等の変動」の状況
  - (7)歳入歳出決算書の経年データ

#### Ⅰ 地方公会計制度について

#### 1. 導入及び推進の必要性

- 「おカネの出し入れ」の視点で財政運営をしてきたため、債務が肥大化。
- ② 債務を改革するために、資産に手を付けることによる資産の売却並びに運用等。
- ③ 公有財産台帳並びに各種法定台帳による「数量管理」から、固定資産台帳による「金額管理」へ。
- ④ 「金額管理」の導入により、固定資産の「統一基準開始時の評価額」とその劣化を表す「減価償却費」の算出。
- ⑤ 民間のような、資産・債務という「ストック情報」を含んだ「財務書類」の作成。
- ⑥ 毎年の「維持費」に「減価償却費」を加えて「フルコスト」を算出し、施設の更新、統廃合等マネジメントへの積極的活用。

#### 2. 財務書類とは?

(1) 財務書類とは、自治体の「立ち位置」・「身の丈」を表す書類で、健康診断書でもあり、次の4表または3表から構成される。

種類	数値の内容	情報内容
貸借対照表	発生主義データを含み、年度末時点の財政状態を示す	年度末の財政状態 を示す(ストック情報)
行政コスト計算書及び 純資産変動計算書	減価償却費・将来の退職金等の発生主義データを含み 運営状況を示す	1年間の運営状況 を示す(フロー情報)
資金収支計算書	現金主義により、資金収支による運営状況を示す	とがり(プロード市域)

- (注) 当年度末のストック情報 = 前年度末のストック情報 + 本年度のフロー情報
- (2) 総務省における財務書類4表または3表の考え方
  - ① 財務書類の作成指針として、「民間の利益目的」でなく、「財政の三つの役割」が基礎。
  - ② 「財政の三つの役割」とは、「資源配分機能」、「所得再分配機能」および「経済調整機能」。
  - ③ 「資源配分機能」は、現役世代に対する資源配分と、将来世代に対する資源配分がある。
  - ④ 全ての地方公共団体が「統一的な基準」に基づき財務書類を作成し、比較可能性を確保。

#### 3. 財務書類の視点

- (1)基礎的財政収支とは?
  - ① 基礎的財政収支とは、歳入から繰越金と公債発行を、歳出から公債費を、除外した収支。
  - ② 財政運営上、借金は、現役世代と将来世代をつなぐ、重要な架け橋。
  - ③ 予算編成上、交付税処置される借金は、税収・補助金収入と同様に、重要な財源である。
  - ④ 借金を財源とした結果、債務が肥大化したので、借金に依存しなかった場合の収支も把握。

#### (2)発生主義決算とは?

- ①・歳入・歳出決算数値に、「見えないおカネ」を加えた決算のこと。
  - ・「見えないおカネ」とは、将来、資金の流出入が見込まれる事象に係る数値で、「発生主義数値」という。
- ② 発生主義データの例
  - ・将来資金の出し入れに伴い、債権債務の確定したもの・・・・・・収入未済額、リース債務等
  - ・債権・債務は確定していないが、確定に準じたもの・・・・・・賞与引当金、退職手当引当金等
  - ・保有する資産の価値の増減を推定する項目・・・・・・・・減価償却費、不納欠損額、評価損益等
- ③ 発生主義の導入により、資金収支数値と発生主義数値との間に乖離が生じる。(しかし、乖離幅は、10%程度)

#### (3)連結決算とは?

① 全体会計=一般会計等決算+公営事業会計 連結決算=一般会計等決算+公営事業会計+外郭団体(一組·広域+関係団体)

➡親十子 =全体(家族)

➡親+子+親戚=連結

- ② 連結決算の必要性
  - ・ 自治体では、親から子・親戚に対して、「繰出金」、「負担金・補助金」、「委託費」を支出。
  - ・ 資金関係が密接なので、親だけでなく親子親戚を合算した「財政状態」の開示が必要。
- ③ 一般会計等集計数値と全体・連結会計集計数値の間に乖離が生じる。慣れていない数値である。 連結ベースでの各種財政指標も把握でき、部分最適から全体最適の視点で分析できる。

#### 4. 統一的な基準の活用方法

(1)固定資産データの活用

フルコストによる「事業別または施設別収支」を作成

- ① 現在の重要な課題である施設の更新、統廃合について、リストアップして議論する段階で、数値情報を提供する。
- ② フルコストによる受益者負担割合算定のための、数値情報を提供する。
- ③ 民間の資金・ノウハウを活用したPPP/PFIの導入のために、固定資産データの公表が期待される。

#### (2)財務書類の活用

- ① 財務書類は、自治体の立ち位置・身の丈を把握する健康診断書であり、今後の予算編成に活用する。
- ② 下記の指標により、財政運営上の目標設定を行い、今後の予算編成に活用する。
  - (イ) 利払後基礎的財政収支並びに公債等償還可能年数
  - (ロ) 一人当たり資金及び基金残高並びに一人当たり公債残高

#### 5. 既整備団体の取り扱い

- ① 固定資産マニュアルによれば、「既に固定資産台帳が整備済または整備中であって、基準モデル等に基づいて評価されている資産について、合理的かつ客観的な基準によって評価されたものであれば、引き続き、当該評価額によることを許容する」と記載され資産評価の二重負担を回避する観点から当該評価額で継続して台帳の作成が可能。
- ② 道路、河川及び水路の敷地については、統一的な基準では、一定の場合1円評価としており、基準モデル評価を継続する場合、基準が異なることによる評価誤差が大きくなるので注記が求められる。

#### 6. 統一的な基準で求められる複式簿記の導入とは?

- (1)目的により簿記の方法が異なる。
  - ① 予算の執行と配分のためには、「単式簿記」が優れている。
  - ② 発生主義による財務書類を作成する場合、その正確性を担保するためには、「複式簿記」が必要。

#### (2)複式簿記の記帳のタイミング

- ① 「日々仕訳」が望ましいとされているが、そのためには全庁的に知識が必要。.
- ② 金銭の入出金程度の記帳ならまだしも、日常業務に加えて複式簿記の習得など、民間ではあり得ない。
- ③ 事務負担や経費負担を考えて、「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書(平成26年4月総務省)294項」に記載された「期末一括仕訳方式」により作成する。

#### (3)財務書類作成の手順

- ① すべての資金取引について「仕訳変換」を行い、すべての非資金取引について、「仕訳処理」を行い、仕訳帳に記載する。
- ② 仕訳帳が完成したら、会計ソフト、表計算ソフト等により集計、総勘定元帳並びに試算表に転記し、財務書類が完成。

#### (4) 仕訳帳への記載の仕方

- ① 単式簿記によって記帳された資金取引(歳入歳出データ)は、「仕訳変換処理」という形で、仕訳帳に記載する。
  - (a)予算科目から統一的な基準の勘定科目が「特定できる」場合
  - ・工事請負費・公有財産購入費・委託費等の固定資産に関係する予算科目を除くと、その多くの予算科目は、行政コストに計上されるものと資産に計上されるものとに、特定されている。
  - ・特定された予算科目は、「統一的な基準による地方公会計マニュアル(以下「財務書類作成要領」という。)」の「別表6-1:6-2 資金 仕訳変換表」に従って、仕訳変換処理する。
  - ・仕訳変換処理の設定をしておけば自動計算されるので、簿記の知識の有無は重要ではない。
  - (b)予算科目から統一的な基準の勘定科目が「特定できない」場合
  - ・「特定できない」場合とは、工事請負費等の固定資産に関係する予算科目の場合であるが、個別伝票毎に、その歳入歳出について、行政コストなのか資産形成なのか、科目及び金額を特定する必要がある。
  - ・資産形成か維持補修費の特定は、システムの自動計算で変換してくれない。
- ② 仕訳記帳されていない非資金取引(発生主義データ)は、複式仕訳処理して、仕訳帳に記載する。
  - ・発生主義取引による非資金仕訳例は、「財務書類作成要領」の「別表7」に例示されている。
  - ・発生主義データの意味、計算方法を知る必要があるので、複式簿記の知識が必要である。

#### (5)仕訳変換処理の単位

- ① 仕訳帳は、歳入歳出データを単位として、伝票単位毎に作成することを、原則とする。
- ② 歳入歳出データとの整合性が検証できる場合には、「予算科目単位で集計した歳入歳出データ」に仕訳を付与し、仕訳帳の1単位とすることも妨げない。」という、予算科目単位の集計値による変換法とする。(マニュアル「財務書類作成要領29段落」)

#### (6)財務書類の作成ツール

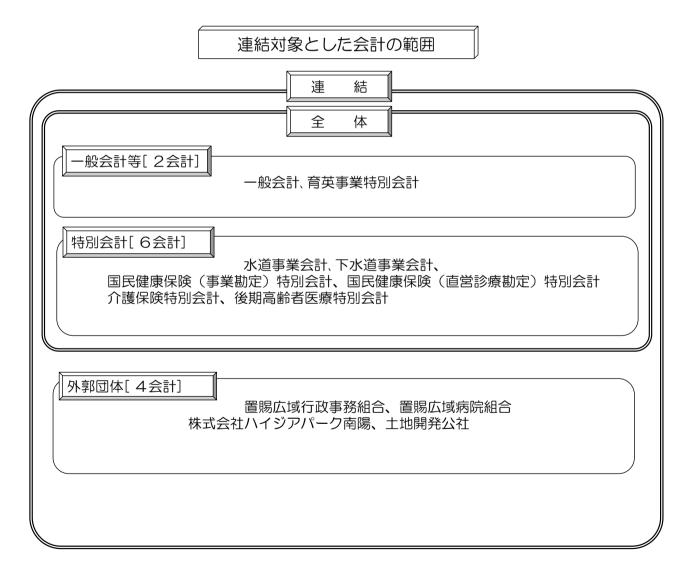
- ① 期末一括仕訳の場合で、「財務書類作成要領29段落」による予算科目単位による集計値を必要に応じて使用する方法によると、仕 訳変換処理の場合で特定できる場合の仕訳件数は、概ね節の科目数(歳入16・歳出28)程度の仕訳で済むので、工夫された表計 算ソフトでの対応が可能となり、検証もしやすい。
- ② 期末一括仕訳は、基準モデル時代には、補論2「簡便作成法」と言われていたが、統一的な基準においては、作成方法に変更はないが、マニュアル「財務書類作成要領29段落」記載の方法になる。
- ③ 当事務所の財務書類作成ソフトは、平成27年11月27日に特許権を取得した。

### Ⅱ 平成28年度 南陽市財務書類の公表について

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度の整備」が位置づけられました。これにより「新地方公会計制度研究会報告書」で示された「基準モデル」又は「総務省方式改訂モデル」を活用して、地方公共団体単体及び関連団体等を含む連結ベースでの財務書類を人口3万人以上の都市においては、平成21年度までに整備し公表するよう通知されました。

こうした状況を踏まえ、本市では平成21年度から「基準モデル」により資産台帳の整備に着手し、 複式簿記に基づき発生主義による財務書類を作成することにより、本市が所有する全ての資産と負債 状況や行政サービスに要したコストを把握してまいりました。

しかし、平成26年4月30日に財務書類の作成方法の統一化のための「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」が取りまとめられ、平成27年1月23日に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」が取りまとめられました。本市では平成27年度から「統一的な基準」により財務書類を作成することにしました。これにより団体間の比較可能性が確保され、将来的には決算分析や予算編成への活用を考えています。



※ 全体とは、一般会計等に特別会計を含めたもので、連結とは、全体に外郭団体を含めたものです。 なお、外郭団体のうち第三セクターについては、市の出資比率が50%以上の団体を対象としています。

#### Ⅲ 平成28年度 財務書類 (要約)

#### (1)貸借対照表(バランスシート)

平成29年3月31日現在に保有する資産、負債、純資産を表示したもので、地方自治体が、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたのかについて、総括的に示したものです。行政的には、資産は、サービス提供能力を示し、負債は、将来世代の負担を示し、純資産は、現在までの世代の負担と捉えます。

(単位:百万円)

	資産	の部					負債の部						
項目	一般会言	十等	全体		連結		項目	一般会言	†等	全体		連結	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	<b>坝</b> 日	金額	比率	金額	比率	金額	比率
(1)固定資産	45,614	95%	68,470	95%	71,248	94%	(1)固定負債	17,102	36%	34,375	48%	36,425	48%
(1)有形固定資産	44,233	92%	65,371	90%	67,811	90%	①地方債等	14,788	31%	24,812	34%	26,400	35%
①事業用資産	25,423	53%	25,423	35%	27,437	36%	②退職手当引当金	2,314	5%	2,487	3%	2,884	4%
②インフラ資産	18,614	39%	39,571	55%	39,579	52%	③その他	0	0%	7,076	10%	7,141	9%
③物品	195	0%	377	1%	794	1%	(2)流動負債	1,551	3%	2,505	3%	3,152	4%
(2)無形固定資産	0	0%	1,098	2%	1,102	1%	①1年内償還予定地方債等	1,252	3%	2,102	3%	2,649	3%
(3)投資その他の資産	1,381	3%	2,001	3%	2,336	3%	②未払金	0	0%	69	0%	113	0%
①投資及び出資金	395	1%	399	1%	244	0%	③その他	299	1%	335	0%	389	1%
②長期延滞債権	108	0%	258	0%	258	0%							
③基金	1,013	2%	1,494	2%	1,827	2%							
④徴収不能引当金	-14	0%	-29	0%	-29	0%							
⑤その他	-121	0%	-121	0%	36	0%							
(2)流動資産	2,393	5%	3,893	5%	4,446	6%							
①現金預金	798	2%	2,065	3%	2,360	3%							
②未収金	22	0%	175	0%	284	0%	負債の部合計	18,653	39%	36,880	51%	39,576	52%
③財政調整基金等	1,574	3%	1,574	2%	1,574	2%	総 純資産の部						
④徴収不能引当金	-0	0%	-13	0%	-17	0%							
⑤その他	0	0%	92	0%	245	0%	純資産の部合計	29,353	61%	35,483	49%	36,118	48%
資産の部合計	48,007	100%	72,363	100%	75,694	100%	負債・純資産の部合計	48,007	100%	72,363	100%	75,694	100%

#### 住民一人当たり

項目	一般会計等	全体	連結	項目	一般会計等	全体	連結
資産の部	150 万円	226 万円	236 万円	負債の部	58 万円	115 万円	124 万円
				純資産の部	92 万円	111 万円	113 万円

#### 項目の説明

(1)-(1)有形固定資産 ①事業用資産: 庁舎や学校などの有形固定資産

②インフラ資産: 道路や河川などの社会基盤となる資産

③物品:器具備品や機械装置などの資産

(1)-(2)無形固定資産 ソフトウェア等無形の資産

(1)-(3)投資その他の資産(1)投資及び出資金:運用目的の有価証券や出資金等の資産

②長期延滞債権: 税等の未収金や貸付金などの回収期限到来後1年を経過した資産

③基金:特定の目的のために積立した資産

④徴収不能引当金: 長期延滞債権や長期の貸付金に対して徴収不能とみられる金額を見積り引当した金額

(2)流動資産 ①現金預金:形式収支額(歳入歳出の差し引き額)や歳計外現金などの現金や預金の資産

②未収金:税収や使用料手数料のうち回収期限到来後1年を経過していない資産 ③財政調整基金等:財政調整基金や1年以内に地方債の償還に充てられる減債基金

(1)固定負債 ①地方債等:地方債・借入金残高のうち翌年度に償還する額を除いた残高

②退職手当引当金:将来の退職者に対する給付すべきこととなる退職金の引当額

(2)流動負債 ①1年内償還予定地方債等:地方債・借入金残高のうち翌年度償還予定額

②未払金:企業会計団体の財貨または用役の提供を受けたが、支払が済んでいない残高

◎ 純資産合計 これまでの世代が負担して蓄積された資産

#### 概要

今までに南陽市では、一般会計等ベースで480億円、全体ベースで724億円、連結ベースで757億円の資産を形成してきています。

そのうち、純資産である、294億円(一般会計等)、355億円(全体)、361億円(連結)については、これまでの世代の負担で支払いが済んでおり、負債である187億円(一般会計等)、369億円(全体)、396億円(連結)について、これからの世代が負担していくことになります。

※ 平成29年3月31日の南陽市の人口: 32,009 人

※四捨五入したため一致しない部分があります。

#### (2) 行政コスト計算書及び純資産変動計算書(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

行政コスト計算書は、1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスなどの提供といった資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストを人件費、物件費、その他の業務費用、移転費用に区分して表示したものです。

純資産変動計算書(NWM)は、純資産(過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産)が年度中にどのように増減したかを、①財源、②資産評価差額、③無償所管替等、④その他に区分して表示したものです。

(単位:百万円)

	一般会計	-等	全体		連結	. [[7]
項目	金額	比率	金額	比率	金額	比率
1 経常費用 計(行政コスト総額)	12,824	105%	20,315	109%	21,563	113%
① 人件費	2,293	19%	2,555	14%	3,349	17%
② 物件費等	4,341	35%	5,647	30%	6,649	35%
③ その他の業務費用	223	2%	489	3%	525	3%
④ 移転費用	5,967	49%	11,624	62%	11,040	58%
2 経常収益	332	3%	1,471	8%	2,479	13%
3 臨時損失	67	1%	75	0%	94	0%
4 臨時利益	300	2%	300	2%	26	0%
純行政コスト	12,259	100%	18,619	100%	19,152	100%
5 財源	12,398	101%	19,235	103%	19,485	102%
① 税収等	9,404	77%	13,865	74%	14,085	74%
② 国県等補助金	2,993	24%	5,370	29%	5,399	28%
本年度差額	139	1%	615	3%	333	2%
6 資産評価差額	1	0%	1	0%	376	2%
7 無償所管替等	12	0%	121	1%	121	1%
8 その他の純資産変動額	-1	0%	19	0%	791	4%
本年度純資産変動額	151	1%	756	4%	1,621	8%
前年度末純資産残高	29,202	1	34,727	-	34,497	-
本年度末純資産残高	29,353	_	35,483	-	36,118	_
※固定資産等の変動(内部変動)・固定資産等形成分	-208	-	-516	-	-334	-
・有形固定資産等の増加	379	-	950	-	1,297	_
・有形固定資産等の減少	1,569	_	2,429	-	2,752	_
・貸付金・基金等の増加	1,255	_	1,308	-	1,328	_
・貸付金・基金等の減少	273		345	_	208	_

#### 住民一人当たり

項目	一般会計等	全体	連結
1 純行政コスト	38 万円	58 万円	60 万円
2 財源	39 万円	60 万円	61 万円
3 本年度差額(2財源-1純行政コスト)	0 万円	2 万円	1 万円

#### 項目の説明

1 経常費用 ①人件費:職員給与や議員報酬、退職給付費用など

②物件費等:備品や消耗品、委託費、使用料施設等の維持修繕に係る経費や事業用資産の減価償却費など

③その他の業務費用:地方債、関係団体の借入金の償還利子や徴収不能引当金繰入額など

④移転費用:住民への補助金や児童手当、生活保護費などの社会保障費など

2 経常収益 施設を使用した際に徴収する使用料や証明書の発行手数料、財産売払収入、雑入など

3 臨時損失 災害復旧事業費、資産の除売却損など臨時に発生するもの 4 臨時利益 資産の売却益など臨時に発生するもの

5 財源 ①税収等:市税や利子割交付金などの交付金、特別会計の保険料等の収入など

②国県等補助金:国や都道府県からの補助金収入

6 資産評価差額 有価証券等の評価差額など

7 無償所管替等 無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等など

※固定資産の変動有形固定資産・貸付金・基金等将来世代に対する資産形成の状況をいう

#### 概要

平成28年度の純行政コストは、一般会計等ベースで123億円、全体ベース186億円、連結ベースで192億円になります。

住民の皆さんが負担した市税や国県等補助金などの財源は、一般会計等ベースで124億円、全体ベースで192億円、連結ベースでは195億円になります。

純行政コストと財源に資産評価差額、無償所管替等を加減した本年度純資産変動額は、一般会計等ベースで2億円、全体ベースで8億円、連結ベースで16億円であり、将来返済しなくてよい財産が一般会計等、全体、連結すべてで増加したことになります。

また、将来の世代に対する固定資産の変動状況ですが、一般会計等ベースで△2億円、全体ベースで△5億円、連結ベース で△3億円となり、一般会計等、全体、連結すべてで減少しました。

※四捨五入したため一致しない部分があります。

#### (3)資金収支計算書

1年間の資金の増減を業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分し表示したものです。

(単位:百万円)

項目	一般会計等	全体	連結
(イ)業務活動収支(④-③+②-①)	1,383	2,369	2,762
①業務支出(注)	11,213	18,049	18,876
②業務収入	12,662	20,487	21,715
③臨時支出	66	68	78
④臨時収入	0	0	1
(口)投資活動収支(②-①)	-1,263	-1,554	-1,888
①投資活動支出	1,633	2,123	2,490
②投資活動収入	370	569	603
利払後基礎的財政収支(イ+ロ)	120	815	874
(ハ)財務活動収支(②-①)	-473	-998	-844
①財務活動支出	1,262	2,117	2,619
②財務活動収入	789	1,119	1,775
1 本年度資金収支額(イ+ロ+ハ)	-353	-183	30
2 前年度末資金残高	1,123	2,221	2,303
3 比例連結割合変更に伴う差額	0	0	1
4 本年度末資金残高(1+2)	771	2,038	2,333
(注)うち、地方債等支払利息支出	154	365	381

#### 項目の説明

イ-①業務支出: 行政サービスを行う中で、毎年度継続的に支出されるもの

(人件費、物件費、補助費、扶助費など)

イ-②業務収入: 行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入されるもの

(市税、保険料、使用料、手数料など)

イ-③臨時支出:行政サービスを行う中で、臨時的に支出されるもの(災害復旧事業費など)

イ-4)臨時収入: 行政サービスを行う中で、臨時的に収入されるもの

(資産の売却に伴う収入など)

ロ-①投資活動支出:公共施設や道路整備などの資産形成、投資や貸付金などの金融資産形成に支出したもの

ロ-②投資活動収入:公共施設の資産形成の財源に充てられた補助金収入、土地などの固定資産の売却収入など

ハ-①財務活動支出:地方債や借入金などの元本の償還

ハ-②財務活動収入:地方債や借入金の収入

#### 概要

平成28年度は、一般会計ベースで△4億円、全体ベースで△2億円、連結ベースで0億円の資金が変動し、 期末資金残高は、一般会計等ベースで8億円、全体ベースで20億円、連結ベースで23億円になりました。

利払後基礎的財政収支は、公債費を賄う財源となるものですが、一般会計等ベースで1億円、全体ベースで8億円、連結ベースで9億円でした。

※四捨五入したため一致しない部分があります。

- 1. 社会資本形成の世代間比率〔地方債等/(事業用資産+インフラ資産+物品)〕
  - ・社会資本の整備の結果を示す事業用資産とインフラ資産と物品を地方債等などによってどれくらい調達したかを表します。

この指標が高いほど将来の世代が負担する割合が高いことを表します。

平成	28年度	平成27年度	比較増減
一般会計等	36.3%	36.4%	-0.1%
全 体	41.2%	41.8%	-0.7%
連結	42.8%	44.7%	-1.8%

#### 2. 純資産比率〔純資産/総資産〕

・企業会計でいう「自己資本比率」に相当し、この比率が高いほど財政状況が 健全であるといえます。

総資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表します。

平成	28年度	平成27年度	比較増減
一般会計等	61.1%	60.1%	1.0%
全体	49.0%	47.6%	1.4%
連 結	477%	45.2%	26%

#### 3. 負債比率〔負債/純資産〕

・純資産(自己資本)に対する負債(地方債等)の割合を表すもので、この指標が低いほど財政状況が健全であるといえます。

平月	成28年度	平成27年度	比較増減
一般会計等	63.5%	66.3%	-2.8%
全 体	103.9%	109.9%	-6.0%
連結	109.6%	121.4%	-11.9%

- 4. 有形固定資産減価償却率 〔減価償却累計額÷(有形固定資産-土地+減価償却累計額)〕
  - 有形固定資産が耐用年数に対して、資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

平成	28年度	平成27年度	比較増減
一般会計等	48.8%	46.6%	2.3%
全体	42.6%	40.6%	2.1%
連結	44.1%	42.5%	1.5%

「負債比率」が一般会計等に比べて全体や連結の率が高いのは、水道事業や下水道事業が 将来の使用料収入で資金回収することを前提として公債を活用する仕組みとなっているこ とに加えて、地方債の償還年限が一般会計等よりも長いことが主な要因です。

#### V 財務書類からわかること

#### (1)比較分析のための前提条件等

- (注1) 統一的な基準で財務書類を作成している5団体(可能な限り同規模)と比較し、分析比率を算出します。
- (注2) 他団体数値は、前年度公表データから引用していますが、空欄は未公表部分です。
- ・ 分析比率算定のための基礎データ及び参考データ

	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
住民数∶人数	32,009	23,700	12,542	9,185	10,413	40,073
面積:Km <sup>²</sup>	160.52	24.99	152.83	270.77	676.78	230.14
可住地面積:K㎡	64.92	17.89	66.95	62.48	314.19	105.80
職員数	287	192	199	175	241	ı
財政力指数	0.45	0.6	0.5	0.3	0.2	0.4
経常収支比率	90.3	92.6	88.7	87.6	81.1	86.8
実質公債費比率	12.30	1.8	6.3	3.6	9.6	6.5
将来負担比率	129.80	19.4	8.0	ı	74.3	ı
特記事項						

#### (2)基礎的財政収支の状況

- ・ 資金収支計算書は、1年間の資金の出入りを、現役世代のための「業務活動収支」と、将来世代のための「投資活動収支」 と、公債に関する将来世代が負担すべき「財務活動収支」という三つに区分した計算書です。 その結果、「利払後基礎的財政収支」がどういう状況なのか、一目でわかるようになっています。
- ・利払後基礎的財政収支(プライマリーバランス)がゼロ以上であれば、公債に依存しない財政運営が行われたことになります。

(単位:百万円)

	区分	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
	業務支出	11,213	6,830	4,820	4,261	7,339	14,836
	業務収入	12,662	7,529	5,429	4,595	9,524	20,364
	臨時支出	66	20	44	0	0	0
	臨時収入	0	0	0	0	0	0
<i>t</i> -	業務活動収支(現役世代収支)	1,383	679	565	334	2,185	5,528
一般会計 等	投資活動支出	1,633	1,248	615	422	2,666	6,021
য	投資活動収入	370	563	295	139	133	228
	投資活動収支(将来世代収支)	-1,263	-685	-320	-283	-2,533	-5,793
	利払後基礎的財政収支	120	-6	245	51	-348	-265
	地方債等支払利息	154	50	49	20	140	325
	(加算)基礎的財政収支	274	44	294	71	-208	60
	業務支出	18,049	11,191	7,537	6,697	8,652	28,459
	業務収入	20,487	12,221	8,702	7,367	11,406	34,011
	臨時支出	68	21	44	6	0	0
	臨時収入	0	0	0	2	0	43
	業務活動収支(現役世代収支)	2,369	1,009	1,121	666	2,754	5,595
全体	投資活動支出	2,123	1,609	811	636	2,828	6,942
	投資活動収入	569	618	320	164	143	1,374
	投資活動収支(将来世代収支)	-1,554	-991	-491	-472	-2,685	-5,568
	利払後基礎的財政収支	815	18	630	194	69	27
	地方債等支払利息	365	176	150	127	230	449
	(加算)基礎的財政収支	1,180	194	780	321	299	476
	業務支出	18,876	15,605	8,992	7,712		
	業務収入	21,715	17,257	10,394	8,546		
	臨時支出	78	21	45	6		
	臨時収入	1	0	10	2		
	業務活動収支(現役世代収支)	2,762	1,631	1,367	830		
連結	投資活動支出	2,490	2,870	1,613	1,120		
	投資活動収入	603	1,338	764	439		
	投資活動収支(将来世代収支)	-1,888	-1,532	-849	-681		
	利払後基礎的財政収支	874	99	518	149		
	地方債等支払利息	381	254	164	127		
	(加算)基礎的財政収支	1,255	353	682	276		

- ・ 作成方法は、歳入歳出決算書の「款・節・細節」から繰越金・公債発行・元金償還金を除外します。
- 「基礎的財政収支」がゼロで成長率が利子率以上の場合、公債残高は増えないとされています。しかし、成長率が利子率以上という前提が成立しない場合には、利子償還金相当額、公債残高は増加していきます。
- ・ 財務省のHPでは、「財政収支」という言葉で表現しています。

「基礎的財政収支が均衡したとしても利払い費分だけ債務残高の実額は増加してしまいます。これを止めるためには、利払い費を含む財政収支を均衡させる必要があります。この財政収支の均衡とは、新たに借金をする額と過去の借金を返す額が同額である状態を言います。」

#### ★ 特徴

- ・ 当該年度で公債を財源とする大きな普通建設事業があると、利払後基礎的財政収支は悪化します。
- 財政調整基金等の大きな貯金を行うと、投資活動支出に含まれるので、利払後基礎的財政収支は悪化します。

#### (a) 公債等償還可能年数を比較(財政の健全性の指標)

「公債等償還可能年数」は、自治体の現在の財政状態を表す重要な指標です。

(単位:年)

指標	会計区分	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
公債等	一般会計等	133	-978	19	37	-42	-106
償還可能 年数	全体会計	33	697	14	30	419	1,129
(注)	連結会計	33	171	19	39		

(注)計算式=地方債等残高 ÷ 利払後基礎的財政収支

#### ★ 特徴

- ・ 公債等償還可能年数は、本年度の収支が続くと仮定して、公債等残高がゼロになる必要年数です。
- ・ 他団体の連結の平均的な年数ですが、当事務所のデータによれば、住民数20万人台の自治体では、概ね20年から40年という数値の財政状態のところが多くなっています。
- ・ 住民数50万人以上の自治体では、利払後基礎的財政収支、公債等償還可能年数がマイナスで、公債残高が増えていくという状況のところが多くなっています。

(単位:百万円)

区分	決算年度	27	28	29	30	31	32
	業務活動収支	1,078	1,383				
	投資活動収支	-992	-1,263				
	利払後基礎的財政収支	86	120	0	0	0	0
77	地方債等支払利息	262	154				
	(加算)基礎的財政収支	348	274	0	0	0	0
	業務活動収支	2,095	2,369				
	投資活動収支	-1,383	-1,554				
全体	利払後基礎的財政収支	712	815	0	0	0	0
	地方債等支払利息	493	365				
	(加算)基礎的財政収支	1,205	1,180	0	0	0	0
	業務活動収支	2,223	2,762				
	投資活動収支	-1,454	-1,888				
連結	利払後基礎的財政収支	769	874	0	0	0	0
	地方債等支払利息	531	381				
	(加算)基礎的財政収支	1,300	1,255	0	0	0	0
			·			·	/¥/L /L\

(単位:年)

区分	決算年度	27	28	29	30	31	32
公債等	一般会計等	192	133				
償還可能	全体会計	39	33				
年数	連結会計	40	33				

(単位:年)

臨財債控除後	一般会計等	127	87		
地方債等償還	全体会計	31	26		
可能年数	連結会計	33	27		

# (b) 各会計の「地方債等償還可能年数」

(単位:百万円)

					· ·	- IT : IT / 31 3/
	水道	下水道				
業務支出	563	452				
業務収入	816	1,054				
臨時支出	3	0				
臨時収入	0	0				
業務活動収支(現役世代収支)	250	602	0	0	0	0
投資活動支出	162	275				
投資活動収入	32	95				
投資活動収支(将来世代収支)	-130	-180	0	0	0	0
利払後基礎的財政収支	120	422	0	0	0	0
地方債等支払利息	31	180				
(加算)基礎的財政収支	151	602	0	0	0	0
地方債等	1,325	8,699				
1年以内償還予定地方債等	112	738				
合計	1,437	9,437	0	0	0	0
地方債等償還可能年数(注)	12.0	22.4				

<sup>(</sup>注)計算式=地方債等残高÷利払後基礎的財政収支

## (c) 各会計の経年比較

(単位:百万円)

	決算年度	27	28	29	30	31	32
	業務活動収支	275	250				
	投資活動収支	-172	-130				
水道	利払後基礎的財政収支	103	120	0	0	0	0
	地方債等支払利息	32	31				
	(加算)基礎的財政収支	135	151	0	0	0	0
	業務活動収支	674	602				
	投資活動収支	-147	-180				
下水道	利払後基礎的財政収支	527	422	0	0	0	0
	地方債等支払利息	197	180				
	(加算)基礎的財政収支	724	602	0	0	0	0
	業務活動収支						
	投資活動収支						
	利払後基礎的財政収支	0	0	0	0	0	0
	地方債等支払利息						
	(加算)基礎的財政収支	0	0	0	0	0	0
地方債等	水道会計	13.8	12.0				
償還	病院会計	18.7	22.4				
可能年数							

#### (3)地方債等と現金預金の状況

#### ★一般会計等の実質債務

(単位:百万円)

区分	項目	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
	地方債等	14,788	5,415	4,091	1,659	13,421	24,792
借金	1年以内償還予定地方債等	1,252	450	459	225	1,196	3,410
	合計	16,040	5,865	4,550	1,884	14,617	28,202
	固定基金	1,013	524	1,333	1,451	4,242	17,606
貯金	現金預金	798	606	276	266	704	1,339
H N I	財政調整基金等	1,574	2,033	659	1,133	553	5,038
	合計	3,385	3,163	2,268	2,850	5,499	23,983
	差引	12,655	2,702	2,282	-966	9,118	4,219

#### ★全体決算の実質債務

借金	地方債等	24,812	11,631	8,051	5,188	27,342	26,895
	1年以内償還予定地方債等	2,102	914	931	569	1,592	3,584
	合計	26,914	12,545	8,982	5,757	28,934	30,479
	固定基金	1,494	759	1,333	1,499	4,243	18,059
貯金	現金預金	2,065	1,691	1,377	776	1,347	3,893
H) II	財政調整基金等	1,574	2,340	1,057	1,166	553	5,038
	合計	5,134	4,790	3,767	3,441	6,143	26,990
	差引	21,781	7,755	5,215	2,316	22,791	3,489

#### ★連結決算の実質債務

	地方債等	26,400	15,511	8,908	5,306	
借金	1年以内償還予定地方債等	2,649	1,380	1,017	577	
	合計	29,049	16,891	9,925	5,883	
	固定基金	1,827	944	1,448	1,582	
貯金	現金預金	2,360	1,826	1,472	830	
H) 2T	財政調整基金等	1,574	2,407	1,099	1,198	
	合計	5,761	5,177	4,019	3,610	
	差引	23,287	11,714	5,906	2,273	

#### (a) 住民一人当たり実質債務(財政の健全化の指標)

(単位:円)

区分	会計区分	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
住民一人	一般会計等	395,365	114,008	181,949	-105,171	875,636	105,283
当たり 実質債務	全体会計	680,453	327,215	415,803	252,150	2,188,706	87,066
残高	連結会計	727,527	494,262	470,898	247,469		

(注)計算式=実質債務(臨財債を含む)÷住民数

#### (b) 住民一人当たり地方債等(財政の健全化の指標)

(単位:円)

区分	会計区分	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
住民一人	一般会計等	501,108	247,468	362,781	205,117	1,403,726	703,766
当たり 地方債等	全体会計	840,835	529,325	716,154	626,783	2,778,642	760,587
4	連結会計	907.519	712,700	791,341	640.501		

<sup>(</sup>注)計算式=地方債等残高(臨財債を含む)・住民数

## (c) 住民一人当たり貯金(財政の健全化の指標)

区分	会計区分	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
住民一人	一般会計等	105,743	133,460	180,832	310,289	528,090	598,483
当たり	全体会計	160,383	202,110	300,351	374,633	589,936	673,521
貯金残高	連結会計	179,992	218,439	320,443	393,032		

(注)計算式=貯金残高÷住民数

### (4) 地方債等と現金預金の経年推移

#### ★一般会計等の実質債務

(単位:百万円)

区分	項目	27	28	29	30	31	32
	地方債等	15,101	14,788				
借金	1年以内償還予定地方債等	1,412	1,252				
	合計	16,513	16,040	0	0	0	0
	固定基金	823	1,013				
貯金	現金預金	1,147	798				
H) 2T	財政調整基金等	729	1,574				
	合計	2,699	3,385	0	0	0	0
	差引	13,814	12,655	0	0	0	0

#### ★全体決算の実質債務

借金	地方債等	25,643	24,812				
	1年以内償還予定地方債等	2,269	2,102				
	合計	27,912	26,914	0	0	0	0
	固定基金	1,323	1,494				
貯金	現金預金	2,245	2,065				
打並	財政調整基金等	729	1,574				
	合計	4,297	5,134	0	0	0	0
	差引	23.615	21.781	0	0	0	0

#### ★連結決算の実質債務

借金	地方債等	28,127	26,400				
	1年以内償還予定地方債等	2,984	2,649				
	合計	31,111	29,049	0	0	0	0
	固定基金	1,453	1,827				
貯金	現金預金	2,327	2,360				
H) II	財政調整基金等	729	1,574				
	合計	4,509	5,761	0	0	0	0
差引		26,602	23,287	0	0	0	0

#### (a) 臨時財政対策債の推移

決算統計33表58行近辺の2列目・4列目より

(単位:百万円)

区分	項目	27	28	29	30	31	32	
## n± n   +/-	発行額	492	414					
臨時財政 対策債	元金償還額	292	327					
N X X	現在高	5,559	5,646	5,646	5,646	5,646	5,646	
/## <b>=</b>								

(単位:百万円)

区分	項目	27	28	29	30	31	32
臨財債	一般会計等	10,954	10,394	-5,646	-5,646	-5,646	-5,646
控除後現	全体会計	22,353	21,268	-5,646	-5,646	-5,646	-5,646
在高	連結会計	25,552	23,403	-5,646	-5,646	-5,646	-5,646

#### (5)純資産変動計算書の「本年度差額」の状況

#### (a) 自治体間比較

NWMより (単位:百万円)

区分	項目	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
6π. ∧ = I	純行政コスト	12,259	7,016	5,126	4,740	8,678	16,534
一般会計	財源	12,398	7,327	5,244	4,454	9,089	19,423
,,	本年度差額	139	311	118	-286	411	2,889
	純行政コスト	18,619	10,793	7,244	6,488	9,285	28,751
全体	財源	19,235	11,093	7,679	6,309	9,797	32,161
	本年度差額	615	300	435	-179	512	3,410
	純行政コスト	19,152	12,463	8,379	7,506		
連結	財源	19,485	13,344	9,210	7,610		
	本年度差額	333	881	831	104		

#### (b) 経年比較

NWMより (単位:百万円)

区分	項目	27	28	29	30	31	32
6π. <b>Λ</b> = I	純行政コスト	12,056	12,259				
一般会計	財源	11,970	12,398				
.,	本年度差額	-86	139	0	0	0	0
	純行政コスト	18,518	18,619				
全体	財源	18,832	19,235				
	本年度差額	314	615	0	0	0	0
	純行政コスト	18,854	19,152				
連結	財源	18,969	19,485				
	本年度差額	115	333	0	0	0	0

<sup>(</sup>注)民間企業では、「本年度差額」が「利益」に相当するのでプラスの必要がありますが、公会計は利益目的ではありません。 公会計の場合、減価償却費が計上されるので、ほとんどの自治体でマイナスになります。

# (6)純資産変動計算書の「固定資産等の変動」の状況

### (a) 自治体間比較 NWMより

NWMより (単位:百万円)

区分	項目	南陽市	大河原町	蔵王町	川崎町	美瑛町	南房総市
	固定資産等の変動(内部変動)	-208	190	-210	-197		2,832
én	有形固定資産等の増加	379	992	287	334		9,709
一般 会計等	有形固定資産等の減少	1,569	836	579	587		8,704
ZHIT	貸付金・基金等の増加	1,255	255	328	126		2,389
	貸付金・基金等の減少	273	221	246	70		562
	固定資産等の変動(内部変動)	-516	438	-263	-237		2,936
	有形固定資産等の増加	950	1,584	394	535		10,585
全体	有形固定資産等の減少	2,429	1,241	804	839		9,521
	貸付金・基金等の増加	1,308	359	418	138		2,735
	貸付金・基金等の減少	345	264	271	71		863
	固定資産等の変動(内部変動)	-334	1,196	204	86		
	有形固定資産等の増加	1,297	2,761	1,142	1,022		
連結	有形固定資産等の減少	2,752	1,678	919	883		
	貸付金・基金等の増加	1,328	377	480	180		
	貸付金・基金等の減少	208	264	499	233		

## (b) 経年比較 NWMより

IWMより (単位:百万円)

VIVIAり						(=	トは・ログリリ
区分	項目	27	28	29	30	31	32
	固定資産等の変動(内部変動)	-204	-208	0	0	0	0
一般 会計等	有形固定資産等の増加	839	379				
	有形固定資産等の減少	1,471	1,569				
Zm	貸付金・基金等の増加	717	1,255				
	貸付金・基金等の減少	289	273				
	固定資産等の変動(内部変動)	-479	-516	0	0	0	0
	有形固定資産等の増加	1,237	950				
全体	有形固定資産等の減少	2,215	2,429				
	貸付金・基金等の増加	803	1,308				
	貸付金・基金等の減少	304	345				
	固定資産等の変動(内部変動)	-712	-334	0	0	0	0
	有形固定資産等の増加	1,334	1,297				
連結	有形固定資産等の減少	2,534	2,752				
	貸付金・基金等の増加	810	1,328				
	貸付金・基金等の減少	322	208				

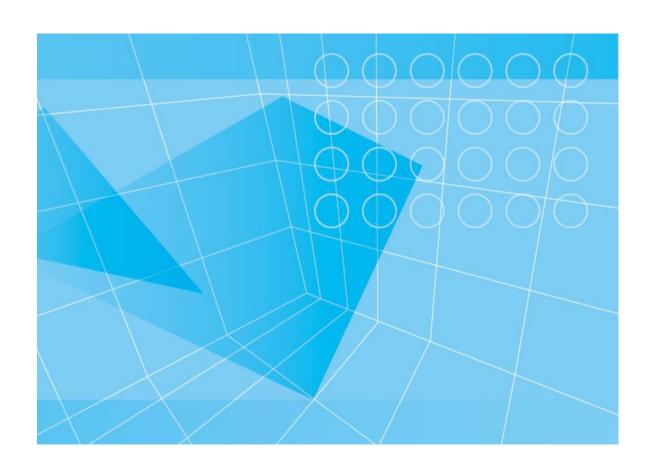
#### (7)歳入歳出決算書の経年データ

歳入歳出決算書より

(単位:百万円)

727 YAX	人升百より +4 ***						- 四八八
	款 or 節	27	28	29	30	31	32
予算現額		15,375	15,772				
	市町村税	3,534	3,537				
	地方消費税交付金	594	534				
	地方交付税	4,457	4,427				
	国庫支出金	1,696	1,719				
収入済額	都道府県支出金	971	1,274				
	その他の款	1,400	1,535	0	0	0	0
	小計(①)	12,652	13,026	0	0	0	0
	繰越金	945	1,118				
	公債発行	1,434	789				
	合計(②)	15,031	14,933				
予算現額。	と収入済額との比較(予算差異)	344	839	0	0	0	0
	委託料	1,524	1,663				
	工事請負費	1,172	530				
	負担金及び補助交付金	2,088	2,387				
十山は女婦	扶助費	1,895	1,979				
支出済額	繰出金	1,627	1,602				
	その他の節	4,093	4,594	0	0	0	0
	小計(③)	12,399	12,755	0	0	0	0
	公債費	1,514	1,416				
	合計(④)	13,913	14,171				
不用額		344	839	0	0	0	0
	歳入歳出差引額(②-④)	1,118	762	0	0	0	0
実質収支	翌年度へ繰越すべき財源	46	50				
に関する調書	実質収支額	1,072	712	0	0	0	0
より記入	基金繰入額	0	0				
	翌年度繰越金	1,072	712	0	0	0	0
財源内訳							
	国庫支出金	1,684	1,699				
	都道府県支出金	967	1,274				
	使用料手数料	126	149				
	分担金負担金寄附金	206	194				
決算統計	財産収入	15	15				
13表 より記入	繰入金	33	83				
	諸収入	148	147				
	繰越金	0	0				
	地方債	940	374				
	一般財源等	9,784	10,224	0	0	0	0
	歳出合計	13,903	14,159				

# 平成28年度 南陽市の財務書類 【分析編】



南陽市財政課

平成28年度決算に係る「統一的な基準による財務書類」について、以下の各表から抽 出したデータを活用し、分析を行いました。

#### ◆貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点において、地方公共団体が住民サービスを提供するために、 どれほどの資産や債務を有するかについて情報を示すものです。資産と財源となる負債及 び純資産の合計は必ず一致します。負債は、将来世代の負担を意味し、純資産は、現在ま での世代の負担ととらえます。

資産規模がどの程度あり(資産合計)、それに対する将来世代の負担(負債合計)が何%あるのか、また、一般会計等、全体会計、連結会計のそれぞれの区分ごとにどの程度あるのかを読み取ることができます。

#### ◆行政コスト計算書

行政コスト計算書は、行政コストという経費明細という位置付けにあり、発生主義数値を含んだ現役世代に対する資源の配分の状況を示しています。行政コストの面では、人にかかるコストである人件費、物にかかるコストである物件費等、移転的な支出である移転費用等といった区分が設けてあります。

#### ◆純資産変動計算書

貸借対照表の「純資産の部」に計上されている各数値が1年間でどのように変動したか を表している計算書です。

一会計期間に、税収と補助金収入を財源として、現役世代に対してどの程度資源配分したのか、また、将来世代に対してどの程度資源配分したのか、つまり発生主義数値ではあるが住民から拠出された税収等が、どのように配分されたのかということを表しています。

#### ◆資金収支計算書

資金収支計算書は、「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」という表示区分を設けて収支状況を明示しています。

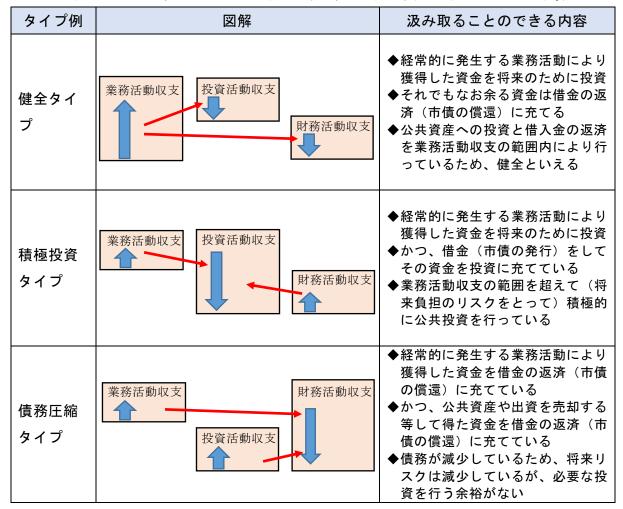
業務活動収支 : 地方公共団体の経営活動に伴い、継続的に発生する資金収支

投資活動収支 : 地方公共団体の将来世代に対する投資活動に伴い発生する資金収支

財務活動収支 : 地方公共団体の負債の管理に係る資金収支(負債の発行及び償還)

業務活動収支は税金と補助金収入を財源として、現役世代に対してどの程度資源配分したのかを表します。業務活動収支と投資活動収支を合算して、プラスの場合借金が減少したことを意味し、マイナスの場合借金が増加したことを意味します。

3つの収支について、主なタイプの例示 (矢印の方向が資金の流れを示します。)



平成28年度決算において、南陽市は「健全タイプ」に区分されます。

#### ◎財務書類分析の視点

総務省から示された以下の分析の視点を参考に分析を行いました。

#### 【分析の視点】

#### 【住民のニーズ】

#### 【指 標】

### 資産形成度

将来世代に残る資産は どのくらいあるのか

- ◆住民一人当たり資産額
- ◆有形固定資産の行政目的別割合
- ◆歳入額対資産比率
- ◆有形固定資産減価償却率 (資産老朽化比率)

## 世代間公平性

将来世代と現世代との 負担の分担は適切か

- ◆純資産比率
- ◆社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率) 【関係指標】 将来負担比率

# 持続可能性 (健全性)

財政に持続可能性があるか(どのくらい借金があるか)

- ◆住民一人当たり負債額
- ◆基礎的財政収支
- ◆債務償還可能年数 【関係指標】 健全化判断比率

## 効 率 性

行政サービスは効率的 に提供されているか

- ◆住民一人当たり行政コスト
- ◆性質別・行政目的別行政コスト

### 弾 力 性

資産形成を行う余裕は どのくらいあるか ◆行政コスト対税収等比率 【関係指標】 経常収支比率 実質公債費比率

## 自 律 性

歳入はどのくらい税金 等で賄われているか (受益者負担の水準は どうなっているか)

◆受益者負担の割合 【関係指標】 財政力指数

# 1 資産形成度 将来世代に残る資産はどのくらいあるのか

資産形成度は、「将来世代に残る資産はどのくらいあるのか」といった住民の関心に基づくものです。

資産に関する情報は、歳入歳出決算書に添付される「財産に関する調書」においても、公有財産、物品、債権、及び基金の種別により記載されています。しかし、土地及び建物並びに山林は、地積や面積で測定され、動産も個数で表示されるなど、市が保有する資産の価値に関する情報を得ることができません。

貸借対照表(BS)は、資産の部において市の保有する資産のストック情報を一覧表示しており、これを「市民一人当たり資産額」や「有形固定資産の行政目的別割合」、「歳入額対資産比率」、「有形固定資産減価償却率」といった指標を用いてさらに分析することで新たな情報を得ることができます。

#### 市民1人当たり資産額

\_\_\_\_\_資産総額 住民基本台帳人口 平成27年 平成28年 一般 149.9万円 150.0万円 全体 224.9万円 226.1万円 連結 235.7万円 236.5万円 資産総額を住民基本台帳人口で除することにより、市民1人当たりの資産額を算出します。類似団体との比較に利用します。

平成27年から平成28年にかけて、一般0.1万円、全体1.2万円、連結0.8万円それぞれ増加しています。これは、資産の増加によるものではなく、住民基本台帳人口の減少により相対的に一人当たり資産額の割合が増えたことによるものです。

#### 【資産総額】

H27 H28 減少額 一般 48,567百万円 48,007百万円 ▲560百万円 全体 72,900百万円 72,363百万円 ▲537百万円 連結 76,388百万円 75,694百万円 ▲694百万円

【住民基本台帳人口】

告入類対答在比率

平成27年 32,408人 平成28年 32,009人 (▲399人)

※一般的な値: 100万円~300万円程度

<b>威八银</b> 对 貝			
		平成27年	平成28年
資産総額	一般	3.4年	3.5年
収入総額	全体	3.3年	3.3年

連結

資金収支計算書の収入総額に対する資産総額の割合をいいます。 これまでに形成された資産が収入 の何年分に相当するかを表し、地 方公共団体の資産形成の度合いを 測ることができます。

平成27年から平成28年にかけて、一般、全体、連結それぞれ微増しています。これは、資産の増加によるものではなく、収入総額の減少により相対的に資産額の割合が増えたことによるものです。 南陽市は、一般的な団体の平均より低い数値となっています。この歳入額対資産比率が高ければ、社会資本の整備に重点を置いてきたことを表しますが、歳入規模に対して過度の社会資本整備を行っている場合などは、今後それらの維持のための負担が大きくなり、将来の財政運営を圧迫するおそれがあります。必ずしも高ければよいものではないことに留意する必要があります。

3.1年

3.0年

※一般的な値: 3.0年~7.0年程度

# 有形固定資産減価償却率

償却資産の減価償却累計額 償却資産の取得価額等 平成27年 平成28年 一般 46.6% 48.8% 全体 40.6% 42.6% 連結 42.5% 44.1% 有形固定資産のうち償却資産の 取得価額等に対する減価償却累計 額の割合をいいます。

耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表し、資産の老朽化のおおよその度合いを測ることができます。

数値が高いほど老朽化が進んでいるといえます。

平成27年から平成28年にかけて、一般2.2%、全体2.0%、連結1.6%それぞれ増加しています。本市においては、文化会館が平成26年に建築された影響(取得価格が大きく、かつ減価償却累計額が小さいのでこの数値を下げる要因となります。)で、有形固定資産減価償却率は低くなっています。しかしながら、本市の公共施設の約4割が築30年を経過するなど、全体としては施設の老朽化が進んでいる状況にあります。

※一般的な値: 35%~50%程度

# 2世代間公平性 将来世代と現世代との負担の分担は適切か

世代間公平性は、「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」といった住民の関心に基づくものです。これは、貸借対照表上の資産、負債及び純資産の対比によって明らかにされます。

世代間公平性を表す指標としては、地方財政健全化法における「将来負担比率」もありますが、貸借対照表により、財政運営の結果として、資産形成における将来世代と現世代までの負担のバランスが適切に保たれているのか、どのように推移しているのかを端的に把握することが可能となります。「純資産比率」や「社会資本等形成の世代間負担比率(将来世代負担比率)」が分析指標として挙げられます。

純資産比率			
		平成27年	平成28年
純資産総額	一般	60.1%	61.1%
資産総額	全体	47.6%	49.0%
	連結	45. 2%	47.7%

資産総額のうち返済義務のない 純資産がどれくらいの割合かを表 します。

純資産の変動は、将来世代と現 世代の間で負担の割合が変動した ことを意味します。

企業会計でいう自己資本比率に相当し、この比率が高いほど財政状況が健全であるといえます。 平成27年から平成28年にかけて、一般1.0%、全体1.4%、連結2.5%それぞれ増加しています。 これは、資産総額が減少しているなか、純資産が前年比プラスとなったことによります。

【資産総額】 【純資産総額】

前述のとおり H27 H28 増加額 29.202百万円 29.353百万円 一般 151百万円 35.483百万円 34.727百万円 756百万円 全体 連結 34,497百万円 36,118百万円 1,621百万円

純資産額の増加は、現世代が自らの負担によって将来世代も利用することができる資源を蓄積したことを表しています。反対に純資産の減少は、将来世代が利用することができた資源を現世代が消費 して便益を受ける反面、将来世代に負担が先送りされたことを表します。

全体、連結の値が低いのは、水道事業及び下水道事業の仕組みが、将来の使用料収入で回収することを前提としていることや、地方債の償還年限が長期であることが要因です。

※一般的な値: 50%~90%程度



将来世代負担比率		平成27年	平成28年	社会資本等について地方債によ
地方債+1年内償還予定地方債 有形固定資産+無形固定資産	一般 全体 連結	36. 4% 41. 2% 44. 0%	36.3%	り形成した割合をいいます。数値 が大きいほど社会資本等の形成に 係る将来世代の負担の比重が大き くなります。

平成27年から平成28年にかけて、一般0.1%、全体0.7%、連結1.8%それぞれ減少しています。 これは、将来世代の負担がわずかに減少したことを表しています。数値が減少した要因は、地方債 の減少です。

#### 【地方債の額】

 H27
 H28
 (減少額)

 一般
 15, 101百万円
 14, 788百万円
 313百万円

 全体
 25, 643百万円
 24, 812百万円
 831百万円

 連結
 28, 127百万円
 26, 400百万円
 1, 727百万円

※一般的な値: 10%~40%程度

# 3 持続可能性(健全性) 財政に持続可能性があるか

持続可能性(健全性)は、「財政に持続可能性があるか(どのくらい借金があるか)」という住民の関心に基づくものであり、財政運営に関する本質的な視点といえます。これに対しては、第一に、地方財政健全化法の「健全化判断比率」(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率)による分析が行われますが、これに加えて財務書類も有用な情報を提供することができます。

市の負債に関する情報については、現行の「予算に関する説明書」においても、債務負担行為額及び地方債現在高についてそれぞれ調書が添付されていますが、貸借対照表においては、このほかに退職手当引当金や未払金など、発生主義により全ての負債を捉えることが可能となります。

財政の持続可能性に関する指標としては、「市民一人当たり負債額」、「債務償還可能年数」、「基礎的財政収支(プライマリーバランス)」があります。

#### 市民1人当たり負債額

負債総額 住民基本台帳人口 平成27年 平成28年 一般 59.8万円 58.3万円 全体 117.8万円 115.2万円 連結 129.3万円 123.6万円

人口1人当たりの負債総額をいい ます。類似団体との比較に利用し ます。

平成27年から平成28年にかけて、一般1.5万円、全体2.6万円、連結5.7万円それぞれ減少しています。これは、負債のうち、地方債(地方債と1年内償還予定地方債の合計額)の減少によるものです。

平成28年度は、市債発行額7.9億円に対し、元金償還額12.6億円となっており、市債残高(地方債の額+1年内償還予定地方債の額の合計)が4.7億円減少しています。

【地方債の額】 【1年内償還予定地方債の額】

前述のとおり H27 H28 (減少額)

一般 1,412百万円 1,252百万円 160百万円 全体 2,269百万円 2,102百万円 167百万円 連結 2,984百万円 2,649百万円 335百万円

※一般的な値: 30万円~100万円程度

債務償還可能年数		平成27年	亚世20年	業務活動収支(臨時収支を除
   地方債+1年内償還予定地方債	一般	平成27年 12.2年	平成28年 11.1年	く。) に対する地方債残高の割合  をいいます。
業務収入- 業務支出	全体	11.8年	11.0年	地方債の償還に要する年数を表
	連結	12.1年	10. 2年	し、年数が短いほど債務償還能力 があるといえます。

平成27年から平成28年にかけて、一般1.1年、全体0.8年、連結1.9年万円それぞれ減少しています。 これは、前述のとおり地方債の減少によるものです。

債務償還可能年数は、償還財源上限額を全て債務の償還に充当した場合に、何年で現在の債務を償還できるかを表す理論値です。債務の償還原資を経常的な業務活動からどれだけ確保できているかということは、債務償還能力を把握する上で重要な視点のひとつといえます。

※一般的な値 3年~9年程度

(注) 「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」落合幸隆著(株) ぎょうせい においては、債務償還可能年数の計算式を以下のとおり示していますが、他市で は上記の計算式を採用しています。 本報告においては、他市との比較を行うため上記の計算式で分析を行いました。

【計算式】 (将来負担額 - 充当可能基金残高) ÷ (業務収入等 - 業務支出)

基礎的財政収支				支払利息支出を除く業務活動収
(プライマリーバランス)		平成27年	平成28年	支及び投資活動収支の合計額をい
業務活動収支-支払利息支出(▲) +投資活動収支	一般 全体 連結	3. 5億円 12. 1億円 13. 0億円		います。 地方債等の元利償還額を除いた 歳出と地方債等発行収入を除いた 歳入のバランスを表します。

平成27年、平成28年ともにプラスの数値を確保しています。この数値が均衡(Oに近い。)している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債の比率は増加せず、持続可能な財政運営であるといえます。反対にこの数値が大きくマイナスになると、その年の経費が市債に依存しないと賄えなかったことを意味し、そのままの財政運営を継続していくことは困難になります。

# 4 効率性 行政サービスは効率的に提供されているか

効率性は、「行政サービスは効率的に提供されているか」という住民の関心に基づくものです。 地方自治法においても、第2条第14項において「地方公共団体は、その事務を処理するに当たっ ては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければな らない」とされています。財政の持続可能性と並んで住民の関心が高い視点といえます。

行政の効率性を表す「行政コスト計算書」は、市の行政活動に係る人件費や物件費等の費用を発生主義に基づきフルコストとして表示するものであり、行政の効率化を目指す際に不可欠な情報を一括して提供するものとなっています。

行政コスト計算書においては、「住民一人当たり行政コスト」を用いることにより、効率性の度合いを定量的に測定することが可能となります。

#### 住民1人当たり行政コスト

純行政コスト 住民基本台帳人口 平成27年 平成28年 一般 37.2万円 38.3万円 全体 57.1万円 58.2万円 連結 58.2万円 59.8万円 住民1人当たりの行政コストを いいます。

類似団体との比較に利用することで、地方公共団体の行政活動の 効率性を比較することができます。

平成27年から平成28年にかけて、一般1.1万円、全体1.1万円、連結1.6万円それぞれ増加しています。これは、純行政コストの増加と住民基本台帳人口の減少によるものです。

#### 【純行政コストの額】

H27H28(増加額)一般12,056百万円12,259百万円203百万円全体18,518百万円18,619百万円101百万円連結18,854百万円19,152百万円298百万円

純行政コストが増加した要因としては、「経常費用」内の、福祉サービスの提供といった資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストのうち「移転費用」に区分される費用(社会保障給付支出、補助金等支出、他会計への繰出支出等)が増加したためです。

※ 住民1人当たり行政コストについては、地方公共団体の人口や面積、行政権能等により異なるものであるため、一概に他団体との比較を行うことは適切ではありません。(比較は類似団体で行うこととされています。)

# 5 弾力性 資産形成を行う余裕はどのくらいあるか

弾力性は「資産形成等を行う余裕はどのくらいあるか」といった住民の関心に基づくものです。 財政の弾力性については、一般に、「経常収支比率」等が用いられますが、財務書類においても 弾力性の分析が可能となっています。「純資産変動計算書」において、市の資産形成を伴わない行 政活動に係る行政コストに対して地方税、地方交付税等の当該年度の一般財源等がどれだけ充当さ れているか「行政コスト対税収等比率」を示すことができます。

これは、市がインフラ資産の形成や施設の建設といった資産形成を行う財源的余裕度がどれだけあるかを示しています。

行政コスト対税収等比率			次文化计大学和大小作品工程和
	平成27年 一般 98.7%		資産形成を伴わない行政活動に 係る行政コストに対して地方税、 地方交付税等の当該年度の一般財
<u>純経常行政コスト</u> 財源	全体 97.0% 連結 97.7%	98.0%	源等がどれだけ充当されているか を示します。

平成27年から平成28年にかけて、一般2.1%、全体1.0%、連結0.2%それぞれ増加しています。これは、財源の増加を純行政コストの増加が上回ったことによります。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いといえ、さらに100%を上回ると、過去に蓄積した資産(基金など)が取り崩されたことを表します。

#### 【純経常行政コストの額】

	H27	H28	(増加額)
一般	11,808百万円	12, 491百万円	683百万円
全体	18, 268百万円	18,844百万円	576百万円
連結	18,536百万円	19,084百万円	548百万円

#### 【財源の額】

	H27	H28	(増加額)
一般	11,970百万円	12,398百万円	428百万円
全体	18,832百万円	19, 235百万円	403百万円
連結	18,969百万円	19,485百万円	516百万円

※平均的な値:90%~110%程度

# 6 自律性 行政コストに対する受益者の負担はどのくらいあるか

自立性は「歳入はどのくらい税収等で賄われているか(受益者負担の水準はどうなっているか)」といった住民の関心に基づいています。

これは市の財政構造の自律性に関するものであり、決算統計における「歳入内訳」や「財政力指数」が関連しますが、財務書類についても、「行政コスト計算書」において使用料・手数料などの受益者負担の割合を算出することが可能であるため、これを受益者負担水準の適正さの判断指標として用いることができます。

受益者負担の割合	T #07/T	∓ <b>+</b> 00 <i>+</i>	経常費用に対する使用料及び手
	平成27年 一般 3.1%	2.6%	数料を主とする経常収益の割合をいいます。
経常収益 経常費用	全体 7.6% 連結 15.5%	7. 2% 11. 5%	受益者が負担しない部分については、税、地方交付税及び補助金等により賄われます。

平成27年から平成28年にかけて、一般0.5%、全体0.4%、連結4.0%それぞれ減少しています。これは、経常収益の減少に対し、経常費用が増加したことによります。一般的に病院、ガス、上下水道事業を行う地方公共団体は、受益者負担比率の数値が高くなる傾向があります。

#### 【経常収益の額】

	H2/	H28	(减少額)
一般	371百万円	332百万円	▲39百万円
全体	1,496百万円	1,471百万円	▲25百万円
連結	3,407百万円	2,479百万円	▲928百万円

#### 【経常費用の額】

	H27	H28	(増加額)
一般	12,179百万円	12,824百万円	645百万円
全体	19,764百万円	20,315百万円	551百万円
連結	21,943百万円	21,563百万円	380百万円

※平均的な値:2%~8%程度

(注) 「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」落合幸隆著(株) ぎょうせい においては、受益者負担の割合の計算式を以下のとおり示していますが、他市では上記の計算式を採用しています。

本報告においては、他市との比較を行うため上記の計算式で分析を行いました。

【計算式】 使用料及び手数料 ÷ 純経常行政コスト

【参考資料】 「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」 落合幸隆著 (株) ぎょうせい